

京都市地域・多文化交流 ネットワークサロン通信

発行日 2025年7月1日 編集・発行 京都市地域・多文化交流ネットワークサロン 第49号

「多文化共生・多世代共生のまちづくりをすすめましょう！」

第13回 東九条春まつりは、成功裡に終了することが出来ました。実行委員会を担われた多くの方々に深く感謝いたします。またご協力をいただいた山王自治連をはじめとする各町内会の役員の皆様、京都市役所・南区役所の皆様に深く御礼を申し上げます。

いまは亡き矢吹文敏さんから実行委員長を引き継いで7年になりました。私たちの春まつりは、回を重ねるごとに深化・多様化していると実感しています。ステージ上で披露されたこどもから大人までの各種演技や展示コーナーの素晴らしさ、出店で販売された食品・商品の多様さ等々、東九条では多文化共生・多世代共生がなんの違和感もなく成立しています。また能登半島地震被災者支援コーナー設置をはじめ、ガザ・ウクライナ・ミャンマーなど困難な状況に置かれている人々の現状を訴える参加団体の活動は、社会的テーマへの取り組みが春まつりの大きな構成要素になっていることを示しています。まさに東九条春まつりは、回を重ねるごとに様々な要素を取り入れつつ、新しい歴史を刻んでいます。

本年に入り、東九条マダンが「国際交流基金地球市民賞」を受賞しました。また在日1世の識字学校「オモニハッキョ」の教材・資料が「自主夜間学校いいあす京都」に引き継



東九条春まつりの出店（丸ポ商店）の手伝いをする小林実行委員長

がれていきました。東九条で生まれ、育まれてきた歴史、文化・芸術活動が、いま各地にはばたき、次世代に引き継がれようとしています。私たちも、地域の歴史、文化・芸術活動を引き継ぎながらまちの活性化を図る一員として、東九条春

まつりを継続していきたいと思います。東九条は、いま大きく変わろうとしています。外国人旅行者による「インバウンド」効果で多くのホテルやゲストハウスが作られ、外国人が私たちのまちを訪れ、宿泊し通り過ぎていきます。同時に市有地を活用したアート施設の建設や公園の再整備も進められています。また私有地でのマンション建設も次々と進められています。市街地再開発や居住環境改善により街の価値があがる一方で地域住民が住めなくなる、という「ジェントリフィケーション」がいま目の前で進行しているのではないのか、大きな不安を抱いているのも事実です。街をよくしたい、若者や子育て世代に住んでほしい、地域の歴史を残しながら街の活性化を図りたい等々、住民の様々な思いと「インバウンド」や「ジェントリフィケーション」とはどの様に交差していったらよいのでしょうか？この街の歴史をどのように残し、何を変えていったらよいのでしょうか？どのように街を活性化していったらよいのでしょうか？課題はいくつもありますが、まずは東九条春まつりを継続し、多文化共生・多世代共生のまちづくりを進めたいと考えています。2026年第14回東九条春まつりにむけて、ともに歩んでいきましょう。



フィリピン人技能実習生のダンスステージ

小林栄一（第13回東九条春まつり実行委員長）

京都から輪島へ～春まつり能登支援のお礼

皆さん、こんにちは！

約10年間住んだ京都を離れ、昨年12月に石川県輪島市に引っ越しました。5月末の輪島は爽やかな気候で、夜はときどきホットカーペットをつけています。京都はもう暑いでしょうか。鴨川沿いが気持ちいいだろうなあー。京都にいた頃は、「バザールカフェ」という場所に軸足を置き、いろんな人たちと出会い関わることができました。ときに悩んだり悔しい思いをしながら、宝物のような日々を過ごしました。ただ場があることと専門性との共存、「みんなで」つくるプロセス、自分も人も大切にすることってどういうこと？…いろんなことを一緒に考え、いろんな場面をともに過ごしてくれる人がいました。

2024年1月に能登半島地震が起き、その年の5月に初めてボランティアに行きました。

古いお家の蔵にあった何百点という漆器を、一間の仮設住宅には置くことができないので廃棄するしかなく、ゴミ集積所に持っていきました。自らの家と店舗が全壊した料理人の方が避難所で毎日されている炊き出しを手伝いながら、地震当時の話を聞かせてもらいました。京都に帰ってからもそうした人たちの顔が浮かんで、いてもたってもいられない気持ちでした。



改修工事前にご近所さんがご馳走を持ち寄り行われた交流会の様子

それから毎月通うようになり、夏ごろには月の半分くらい能登に滞在するようになりました。はじめは被災した部分ばかりに目がいていましたが、豊かな里山里海の景色や食べものに癒され、個性豊かな住民の皆さんと知り合い笑ったり泣いたりするうちに、この人たちとこの土地に近いところで生活してみたいと思うようになりました。そこからは早く、移り住める環境とタイミングが重なり、流れるように輪島市民になりました。

こちらでは、「一般社団法人ごちゃらあと」というところで場づくりに関わっています。9月に水害を受けた民家を改修して活用する事業「コミュニティBASEうるしはら（仮）」では、住民の方々の地縁やいつもの居場所、役割といった、暮らしのなかにあるささやかな喜びを取り戻すことを目的としています。来月から始まる改修工事を待ちながら、近隣住民の方々とお茶をしたり、ちくちくぺたぺたと手を動かしたりしながら、こんなことしたいな～を口にしています。活動はまだまだこれからですが、すでにこうした時間に意味があればいいなと思います。

今年の東九条春まつりに設置された能登支援ブースの売り上げと寄付43,724円を、ご



家財や古材のレスキュー活動。クリーニングの様子。左が狭間さん

ちゃらあとにご寄付いただくことになりました。本当にありがとうございます。京都から能登を思い出して、応援してくださる方がいるということがとても嬉しいです。思い返せば、去年の春まつりで能登支援ブースを担当させていただいたことが、能登に行くきっかけだったと思

います。恥ずかしながらそこで初めて能登を身近に感じ、被害状況などを調べ、一度行かねば！と思ったからです。私のなかでは京都にいた頃の活動も人も現在と地続きで、違うことをしているという感覚が実はそんなにありません。引き続きつながりながら情報交換するとか、こちらからできることも試行錯誤していきたいと思います。最近の状況としては、家財や古材をレスキューする活動が生まれたことで昨年には救えなかった漆器を今は救えたり、仮設店舗が徐々にでき生業を再建しようという人たちがいたりします。そうした希望や「ささやかな喜び」もあれば、悲しみや切なさだってあります。どこにいたってそうですが、いろんなできごとや感情とともに日々を過ごしていきたいと思います。皆さんもどうかお元気で、これからもよろしくお願いします。

狭間明日実

東九条ゴミコロリ報告

2021年度、コロナ禍で始まった東九条ゴミコロリ（清掃活動）は、5年目に突入しました。京都ダルクとともに、レギュラーメンバーとして活動されていた「まち美化戦隊ゴミコロレンジャー（株式会社NPO スウィング）」は、いつも、この活動をわくわくさせてくれる存在でした。残念ながら、今年3月でレギュラー参加が終了となってしまいました。写真は最終日の活動後、子どもたちとお茶で乾杯した時の様子です。また、子どもたちの長期休暇に合わせて来てくださる予定なので、その時はみなさんも一緒にゴミコロリしましょうね！



※東九条ゴミコロリは今後も毎月第2火曜日（変更の可能性あり）に行います。

編集・発行 京都市地域・多文化交流ネットワークサロン

□所在地：601-8006 京都市南区東九条東岩本町31

□tel：075-671-0108 □fax：075-691-7471

□開館時間：9時～17時 □E-mail：info@kyotonetworksalon.jp

□webサイト：http://www.kyotonetworksalon.jp

□JR京都駅八条口・JR京阪東福寺・市営地下鉄九条駅より徒歩15分

□京都市バス202・207・208系統 九条河原町より徒歩10分

16・84系統 河原町東寺道より 徒歩1分